玉川日記六編上

へ13
3188
14

武拾壱冊之内

松下

門へ13
3188
14

昭和十六年二五

三川合遺四
三川合遺四
三丈舎主人

橘庵
たま
さとの子
人形
岡ひき歌
草屋
うた

松月堂ろぐれ露談 拾遺玉川巻之四

江戸 狂訓亭主人作

第七套

さてもお糸は越方や行末とくのうちの出て因果の程のもとろ〳〵ぐまこと情路の光明ふ門の手ちのうえべとてもかくてもあだ〳〵で他ふ面は合ってとりゴボウをとる三尺を捨んと覚悟もうるる女乳のいとでうて死後のまろ打もわれをそろく来る。勅化使ひの頃和漢

さてさて月の新[illegible]さてさてうらいの岩根山賽の河原のふ
ぜんそうそん。ろくどう一わぶつ
ゆき給ふ六道巡りを濟度し給ふ。慈悲深くまします地蔵菩薩
三界の勿子が。小石拾ふて回向もつ。父母恋しい慕しと泣とさ
れて塔婆つむ。あらまこと哀れなこと。こゝの子どもを[illegible]
うる。その人間の子の世や。貝殻まんらるの朝夕のこゝろのうつり
きゝをのもそうぜん海生まれ。思ひどやと泣うちうきも彩
のかげ。ふるいらどこをまり。耳ふくとおけくさとりしがりぶ
ぶ。ゆどこをこの。ぶうもせべ賽のふるで

自然えも。ちくねとの母深えをも父とちくふく涙ふの身の
いづくに今さてふのそかへられ。ゆるゆる前世とゆゝの約束
七二人がゆふ宿しる。懐抱の母の慈命。ゆゝ身ハ金成為
きこゝ。せあてこの児ハ産長し。ちうゆめて源さん
ふ。ちうさでけくらふ島言さんも義理ある中。ゆりや
慈母ちくこゝ。せまゝ。といふく行ふく身をよせて。産ふと
ちくさんかとせんと。ふくのとふく書ちくふ送ちうゆゝ。
まこと。拾ふ。ふしかこの。拾ふ。ふくの。やうや。滝川と。ふくと

とぢかゝる空のうつり。おろ〳〵さめて三四人。まかる時の女はぐ
ふ。イヤモウ。あゝとてゴロ〳〵ぐ。あちら〳〵。おちつく。狂ひて。遊者も。蜜の仲の
の。あまをばくおい。亡者。さるの。ちあふ。あらうかんな。▲「まへ
うゝるの。毛サ。呂でも。死んざ。人でい。あゝ。出ません。いとく。谷
川。月をゝるげ。さ。ゝ。ゝ。生。「それ。くよ。ふ。前世の
罪障のでもたゝ。ふ。ゝ。ま。どか。ん。そう。ゝ。ゝ。でぐ。ん。すと
おいとぐ。狗。ふ。ゝ。と。ゝ。ゝ。わ。ゝ。る。辻。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ま。ま。べ。ま。ふ。の。女。れ。ま。ふ。ゝ。く。ま。ま。ゝ。ゝ。す。ゝ。ま。ま

もゝその中ふ一人の女ちゝぐとおあぐ。塩いく。ぐ。ぐ。ちゝ。ゝ。あげ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。時。ゝ。も。雲。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。月。ふ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ま。ふ。ど。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。
ゝ。
ゝ。
ゝ。
ゝ。

旦嬋は遺て
お糸性命を
全さ

くもゐのひろけつまさ寿ひさ二方のの路でかくーんとかを
宝あうちつまているのつひ〜あそが宅へいてまべ連へ
そまくくよりぶ赤くこそへ泊りゆく糸へお糸と分花
して一ーくどく拾ぶ〜この宅ございまいろ話をおくるし
ゐされまーい門をお奥ゆおやつまのその拾ゐさごめし
流いに拾ゐが一せくことけゆめゐれど今さ行と種方
ゆ亡方とかくごきいめゐろ二ぶ方の上をおくーく結
つまそ川を流せーくべおそへ〜〜〜承知ていと信

切ゐかくーめ一死ゆくーめとおぶ〜めとゐぶとへ話ゐ
余ゐまゐいひう筒とへゆゐ世ゐゐよいゐ〜ゆゐそゆ
をこで考ひゐろのゐゆへ迫ゐのゐびゐーんのと結
ゐあゐへおとゐーゐとおびひいとくめゐゐへ彩ゆかく
ゆその赤ゐさんのおゐとへそへは世あそのゐゆへ源ゐゐ
さんのお程とどへぶで産長ーそそのゐへふとそたゐゐと
のおゆをそそまゆゐゐ春ゐて赤ゐさえがお乳を
ゐゐへまゐ時ゐまでそのゐへ拾ゐことゐへ私

の親父の宅で出せの相父の手摘まつ藤ま
まーて和ゆへ三まこもおつまんせんうまーまつ者づひ
をあさーとふ山安産をるさる中うふ山安拵ふさまと
どあるうとトりゃお茶たうでもさーらくさーわげま
せうとあさーくもいうるあるーげわらひふお弟の藤
しく乳もおちつきあるひ宅あーあ命さへまーと平
まるーへの事ひるーねどさの親ふちづくく月見を
なぜ五せーぶ実よかと思今の乳栄さへ者のわーね

五後が今へ五ぜてあるぞてあ者おいとてのおろ
ひるく 五一お門美今見へ和へ金ふへ五まくまん
川くさちとよるとあるうよ者ーまーくーお麻し
うらうり五ぜどどふぞお一人でおろてんぜうまーと
いまれてお者へとうくるぜーく娘ふ伝の親でろ白
おとるげちくもいまとれべとアイヨさーー仕ぜこを
かづけ 波平あんるーくあくあ作ておくまヨ五一ハイ
新延ぜとあくさとさへいこ五ぜーこいがいへかーるまんト

いのうへ出てゆくわとよおゝ糸ひとつとびゝくの外
ゞ見物ゝ初春のこゝろめうつゝおくかさあつゝ
あまずくをゝゝと風すごく紅白そろる時こそわき巻
戸のかさゝ彼岸戸をゞゝゝと押明入まる曲のお
糸へひりゝとゝゝ向くゝゝ丸べ身の丈ゝとゝゝ六
の男のゝゝゝゞひよ面をかくゝて踊ゝゝゝゝゝ糸へ
ゝゝとあどゝきて表の戸をあけ逃出てゝゝゝゝ
一人仁ゝゝゝゝかけてるお糸に接吻をいく押つゝそ

うちふ将戸ゝゝゝゝ曲ゝゝ細引ゝゝゝゝゝゝ
ふお糸をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うち仕合好とゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ居てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
重成ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
掛ふのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
畑の素山子ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
おいとゞとけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

旅糸
命を有らく
虎穴に
入らずば
虎子の
陥る

いとくちおしき滝のかくまでくこそあやうけれ
必竟これいかなるのぞ四十女いとうまどうはくしく
みさうとなれば二十余ともえもあるなよひをつけて
人匂引のあぐさこうぼあれもぐしたの美婦く
まさこも幸せをかさねるあくんそれ次の條をよそ
ゑるそのちそのくらーき武士せもく

第八套

風吹義理ぞ

横をうつまと一色の森の西

ようへ流まあるうまくふあれくる茅ぐ軒注まの方へ
直ぐ葉植あるひへ竹ぐ数中ぐらし結ーー残ーて結ーく
とへ思くね悪漢二人そどこの荒家よすまるとる
稼ぐの小阪流ぐ今ひとりへ猫の川助川へモシ
あるくこと今接遇村の家遣どのぐ圧結かりぐ奥
の幸傳わりやァァどよまるつりうまくれへぐうぐ
貧尾ちくゑうくとの川助がるるひをうまくーう
わうびの〇市 第八ケ せもーれへ考ぐうかーあまーまぐ

ぞうにうの大頼成敵とへいろねく代のめ[illegible]
ようやゝ金行ろうくうとうるあぐ住るふかるまうへ
ちりとぐろうる乱も知て茶とサあいるとんよ一ぱい
若ゆまこゝ[illegible]ゝ乱をきろーて暮を切るの川へ金
きうけの茶ぐろうよゝ新方も好ぐろう[illegible]ゆまま
こへ出ていきやゝ[illegible]ゝ字ゆる狗ちのうるひせのと死
をぐ告りてる無駄やお名いいまゝめゝまるうへ
くるぐへ猫ぐりとぐよあるうのと前後もこうゝね

あぐゝおとろゝくまこゝ郎ゝさるいやまきろ猫子の
郎ともりて死まへぐ中ぐ障子の猫例ようゝ逃ぬん
とするうしろの方へ[illegible]ゝく逃るへもぐて家の四方を
持ぐりで垣根へ竹の八まぐてひ猫のそひ知す完
もれへとふ知へへの食定ておとうゝ婦へへの知文と
詰ぐておへへおまぐ大まへの金で金へ笑ゝとのぐ
糸ゝ[illegible]ゝもいそれぬ口法ゝゝへ多鼠ひをわぐへ
てお糸あぐ魚へのそぐきゝ魚の魚でろうぐし[illegible]

さてもこの国でもたぐいまれなる美しいこの手弱女
こうまでもなまめかしく糸のように花のけびやかな
女房ども　ずいぶんひどくこれいうとドレモ徳を
ぶりたてるこれいやそれもあるあるこれ婦人姿と
ちがうべかりけるどもはまだくしとするうるさくしさ
まで男とび者にせることをつくづくしーとおつくづく
そんなふふふこていやぐずぐずとものを強をうと抱き
て寝りやう勢をいのちを助もとるそれをもその

まうこめの縄もうばうよとうとめ
ろうれいぐ懐紙でいろのを承知て吉凶るやうぐ孫子
の無沒がちりと入れもあの命を買ことのよ
ぐそんなふびんろうるるのれ孫の赤子をいとして
ところもどのうかんそうぐ人の佐ふ者某を調合
ちろ如来ぐうまんぐ犬死といくとけもれくまぐ
退まくまくの帯ぬとそれ抱まくく孫ろとくそれ
てのよろうとてもの地獄の御平よまくらまくう

のようふさ仕とすると世のまゝめるざーもるぐと
物語利さとぐ利愛の女の名「そふいのこと」
おまつのいつるゆまてゝ食ぶなすりふちがへるいるゝ
どくろうと「実ふたろうして金よまる方が世方の利勘
ぐ仕をいふゆもその自の美くしのぐ門ちのうを
女貝のちゝ毒うよのうはが生り手洗ぶきこ八五高生
めとうとふく縄引とのるその西邑の義二三人
この家の門のえ「オイ落ぶんぶもうるといと

見とく注ぶ毒うちんーおとをぶ物へおーぶ「ーすく
これの邑の元が夜の山けとのふかの月で「一寸茶とのうく
他のうりでいあい手ちとのうを美ぶ宣舞よふ門て大
きくふ病人とまるとく山れの金瘡青切病の薬を買ふ
きまとのぶ家入て居ゆうと薬ぶうふよく今時分家
へふいくぶ「イヤく変いとくぶとともわゆくうりふかけく
ゆうとく仕用のまゝゆゆ吳くふ「イヤそれあるうよう来
ぐて「ホウ美いなぐんぶどのくひ「ア二三百蒙てぐ

せくと笑て法界ハおくの方迄出しふめく戸納お夏ハ
こまこと驚いと出るを右門うろ押へつけ戸屋へ推とろう
うと法華経をとろうく打まとび国舎の人のうりうと
おあぐ方へ乳もつくを代をとろくふて出るふ「さく大
きふ毒薬でおりさどりやとの薬で怪毒人を率て
ちうく仲居り「こうちの酒のどちとうぐ今夜の骨お
こまもあるみの好をどやトかうコロうわ拾ぜろふおく
うち連出て早く駕ろうぐ「さく〜ちんざ

ぶ新ぢのりさ行奴がけ心今ろろろ廉くろい新吏さつけ
ふ彩ろろ〜ここは心言をとべろろ傍ふお茶を戸納の
うちより出〜歩を言名舎ろ新ものく抱ものを男「ろく今ゆげろ
かろうこまあんまり表ぶとい知ぶと捕ものを実例〜浴戸
へかけ知ぶと一生勉命ものろろろ不言ふおー〜こをこを
ちる新ろぐろ法ふの「こまあく笠人娘ろうん
ぞのゆうふそんあふころぐるるもわく表を具ふろうやア
新子の仕合ろづろのる代いやぐりやアそこの金い

いつぶるまでのべぶ泊だ〳〵ことでは見ふ事有〳〵が降るよ降る
やう〳〵うよ七月やう〳〵雪人ひとり旅あるまるを
うんやうとうとまるくその美しい良を考めておーの
ひとりの男をかうまりわうこまさ考るのおく
まうるへくうんまべうんるわどふいたる手陽ごとうして
業よ夢てやうやう五十両まいあう野を旅て国家で
旅乳をたうまる系八元く系狂でんどさくはんが私の
神くさるく頭をかりのうて一年男ふ意はんくまし

ぞうのぞ出ようを産まんとしたまひしが
てあり母うくことけめしてこれ今八幡宮
まし前尾ようく産ようを産ご給でちうく系ひく新さ
れまをせうと逃まうるをおひまひ「そとの者ゆの分
の者へのいりご命と法うこうの極まとく藤ゆうとあう
して鶴をさろーておいてまと男女べ様ゆめごとよく
いうくうごうくをぬうすいふとうで向ほうよりへ
ちうく元の者りをうごうてこ産てうべきえんごうくこ元新

してそまうく脇のこを引出して茅を調合金産け
そのうう扶の乳あーご動きゃゃうくみと花かるその
新このすこうあーく変う熟鬼ゆそうーき

作者曰巻をそのそよむ子ぞ元よくこうーて
ようまへお系ゆそのの性峯ゆめてきこうゃうえ
うけくーくさーたるの熟るのうるさでまどその美元時
深物ゆうこ産このまうどひく産ゆあくー娘とあく
こて法ーくわうる式神ゆくの産こを行うて

孫六郎執筆の命ふつゝと交合して因果
のたゝりを身ふかぶゝまでゝ作る地獄のうゝ
わるとたゝ人を孫ゝとまきゝわるをきゝ人ふ孫ゝとまゝと
今まゝかる災難もこゝとあつがゝ業ゆゑ幸
苦のゝどゝいゝうゝん作物ゞうゝとゝゝゝゝゝゝ
よゝくゝくゝゝゝゝゝゝ

おんとしはるづく法たちそのうふ川の岸ゑ迎ゐ出ゐ
きゑ音の出さいよう南ゑと一こゑとびとび鶏冠のかぶり大
夢ゑさぐ目一小ゑの中ふ落ゑうゑうゑ舞一ゑ
紅ぐ目をさゑ一とゑきゑ夏のやひゑけて川下一
十間たゑつゑ流ゑゑ

拾遺の玉川四の巻了